

## 第21回 みんなで語ろう！ ~いなむら市長とともに 車座集会~

### < テーマ型：地域振興センターの機能強化 >

と き	平成27年5月29日(水) 午前10時~11時30分
と ころ	武庫支所 3階ホール
参加者等	参加者 20人 市長ほか関係者 18人 手話通訳 2人 合計 40人

#### 1 車座集会の概要及び本日の進行スケジュールについて説明(職員)

#### 2 市長からの説明

地域振興センターのあり方について簡単に説明

- ・ 国は地方創生を掲げており、尼崎市も今後に向けた独自の戦略を練っていく。
- ・ 本市では、今まで作ってきた建物が一斉に古くなり、一度に建て替えをすると莫大な費用がかかる。そこで、施設の更新については、使い方やルールも含めて、何が必要なかを精査しながら取り組んでいく。
- ・ 尼崎市は6つの地域から成り立っており、それぞれ個性がある。これまでの伝統を大切に、まちづくりの拠点として6つのまま進めていく方針。
- ・ 高齢者、70歳代、80歳代の方々の増加に伴い、悩み事困り事が多くなり、身近に相談できる場所を求めている。経済的なことや、健康面で困っている方々の窓口となるべく拠点づくりを進めていこうと考えている。
- ・ 6つ残すのは、身近な窓口としての役割と地域の見守り活動をされてる社会福祉協議会各支部が一緒になって地域づくりを進めていくため。また、6つの地区が各地区の事情に合わせて使える予算があってもいいのではないかと考えている。

#### 3 市民と市長との対話

- ・ 地区会館の統合について具体的に幾つぐらいしようと考えているのか。  
地区会館同士を統合するのではなく、支所の中にある地域振興センターと地区会館を1つにし、12あるものを6つにしようという計画である。  
各支所にあるコミュニティルームを活用しているが、公民館で行っている活動と似通っている点をどうするのが課題である。
- ・ 本庁や武庫地区ではボランティアはしっかりされているが、小田地区は、なかなか進んでいないと思う。6つの地区それぞれバラバラだと思うが、どのようにしていくのか。  
地区によっては環境、状況が違う。大庄地区は社協の加入が高く高齢者が多い。武庫地区は社協の加入率が低く、若い人が多く、地区の活動に縁遠くなっている人が多い。小田地区は駅前が開発され、まちづくりが進んでいる。

- ・ マンションはマンションで自治会の活動しているが、地域全体の自治会活動が出来ていない。  
やはり、地域で核になる人がいないと難しい。学校・PTA、若い世代の交流など武庫地区では、若い人と高齢者が交流をしている。これから、人口比率から言えば高齢者が多くなる。  
地区ごとに事情が違おうし、同じことをやらなくても、それぞれ、個性のあるまちづくりをやってほしい。
- ・ 地域ごとに特性があるからそれぞれ地域ごとに作るというが、誰が作るのか。今の話では市役所が作ると思われるが、本来ならば、そこに住んでいる地域の人が、話し合っただけで決めるべきではないか。  
まだ何も決まっていない。地域で活動される人達の合意をどうするのか、話し合う場を作っていく必要がある。大庄地域は社協加入者が多いのでその方を中心に進めていくのか、武庫地域など新しい人が多いところではどうするのか。  
全体で統一した一定のルールは必要だと思うが、誰がどのように作っていくかは、地域で決めるべきだと思う。  
役所が知っている人達を集めて話し合っても駄目。地域の人達が地域のために決めていく会議にしていかないと。またセンター長に長くいてほしいという声もあり、その点は内部で議論しているところである。
- ・ 九州から出てきて40年。仕事を定年退職し、地域に入り、尼崎のことを勉強し地域ボランティアを始めた。身体の障害を持った方と関わりたくない意識があったが、ボランティア活動を続けていくうちに、福祉について学び、関わり方がスムーズになった。彼らが活動する場がバス停のそばにお店があったりして、福祉はだいぶ進んでいると実感している。  
私が住んでいるところに町内会がないので、回覧板がない。市報以外のお知らせがわかるような掲示板があればいいと思う。  
市内にコミュニティ連絡板があり、熱心に活動されているところは、新しい情報を沢山貼っているし、何も貼ってないところもある。  
自治会の区域ごとに高齢者の一人暮らし、身体の不自由な方の見守りを進めている。町内会のあるところは実施できているが、そうでないところはどう進めていくか難しい。  
尼崎は一人暮らしの高齢者が多いが、坂道がなく、買い物や病院が近くて過ごしやすい。でも空き家や誰も手入れをしない家が増えてきている。
- ・ 施設の建て替えを検討しているとあるが、予算はいくらなのか。  
8億程度である。
- ・ それだけのお金をかけて統合するのは、生きてくる金額なのか。活性化されるのか、良くなるのか。市の関係者に聞いたら、人が足りないと言っていた。建物より人に金をかけるべきではないか。  
どんなに立派な建物を作っても、そこに働く人、それを支える人。行政だけで活かすのではない。地区会館には運営をする民間のスタッフ、地域振興センターには職員、社協各支部には社協職員とこれを一体的に1つの建物に寄せること。ここをどうして使っていくか、職員だけでなく、地域の人達も一緒に寄ることで、建物に関わる人が増やせる。
- ・ 人を増やすのは大事だと思うが、どれくらい増やそうと構想を考えているのか。  
具体的に数は決めていないが、若手の職員を配置し、地域の課題を地域の人と一緒に考えていきたい。地区によって事情が異なるので、各地区で考えなければいけない問題。地区ごとに人

口が全然違う。企業が多かったり住民が多かったりと、また、地区ごとに自由に決められる予算をつけるとかの議論もしている。

- ・ 老人が多いというが、元気な人が多い。元気な人はボランティア的なことをしたいのに、募集しているのは60歳以下となっているので年齢制限をはずしてほしい。

職員募集には年齢制限があるが、ボランティアにはないと思う。

- ・ 若い人が少ないからもっときちんと育てないといけないのは大事だとわかっているが、中には、親が働いていないので満足に教育を受けていない人もいる。私は詩吟を指導しており、教室に不登校の子を受け入れている。不登校の子は、精神的に弱い子が多いが、ちょっとしたアドバイスで立ち直れると思う。

ご家庭が貧困の課題を持っている場合、次の世代（若者たち）に連鎖する傾向がある。

これについては問題意識を持っており、次の世代である子ども達に支援を届けようという。

不登校対策については教育委員会へお伝えするし、私も承りました。

- ・ 町内会と社協の関係がよくわからない。社協のことよく知らないのでPRして欲しい。
- ・ 車座集会を知ったのは「市長と話したいがどこへ行けば良いか」と聞いて教えてもらった。車座集会の実施については、もっと目立つようにPRしてほしい。
- ・ 今回の県立病院の合併の件でもバリアフリー化は進んでいると思う。しかし、聴覚障害者にとっては手話通訳が必要なのに、受付などに手話通訳者は設置してもらえない。連絡先にファックス番号を記載してもらいたいが、記載のないものが多い。また、防災では緊急放送が聞こえないので、何とか工夫してほしい。

防災に関しては以前からお話を聞いております防災メールを活用して欲しい。バリアフリーの点はハード面だけでなく考えていきたい。

- ・ 地域振興センターに地域の人が気軽にいけるような場を作って欲しい。あと、地域振興センターの所長も若い人にしてほしい。
- ・ 先程から若い人とあるが、何歳から何歳までが若いのか？  
支所にいる職員の中には、定年退職後の再任用職員もいてサポートしてもらっている。これからは、地域のことを知って、様々な課題や問題点を把握し、色々なことを吸収していけるよう、役所に入ったばかりの若い職員を配置していきたいと議論している。

- ・ 今日の車座集会に20代・30代の若い人がいないのが残念である。

平日の午前中なので、参加するのが難しい。

この車座集会では、若者や子育て中の保護者を対象にしたターゲット型という方法もさせていただいている。

たくさんの貴重なご意見をありがとうございました。

以上